



Title	語文 第88輯 表紙/目次
Author(s)	
Citation	語文. 2007, 88
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69085
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

平成十九年六月三十日 発行
平成 元 年十二月五日 学術刊行物認可

語文

大阪大学国語国文学会

第八十八輯

伊勢から中務へ	加藤 雄一	1
—詠法の継承—		
翻弄される昔男	木下 美佳	11
—「伊勢物語」の「色好み」「つれなし」と冠される女を視点として—		
『大鏡』における藤原隆家	石原のり子	21
—実仁親王・輔仁親王を視座として—		
定家本伊勢物語の展開	加藤 洋介	33
—その変わらざる表記をめぐって—		
中古日本語のトキ節に見られる文法的特徴	黒木 邦彦	45
平成十八年度卒業論文・修士論文・博士学位論文（課程）題目		54
平成十八年度受贈図書		54
平成十九年度講義題目		56
彙報		56

前号（語文87輯）目次

上代形容詞の連体修飾用法……………林 浩恵

——語幹による修飾と連体形による修飾——

『源氏物語』と中世王朝物語、その変容と隔絶……………藤井由紀子

『徒然草』第三十八段における「莊子」受容考……………陳 秉 珊

——「智」を手懸かりとして——

『天狗の内裏』版本改作本について……………箕浦 尚美

——付 実践女子大学山岸文庫蔵本翻刻——

芥川龍之介『支那游記』論……………鈴木 暁世

——『馬の脚』『湖南の屋』への影響について——

宮沢賢治『土神ときつね』論……………西村真由美

——樺の木の存在を視座として——

彙報